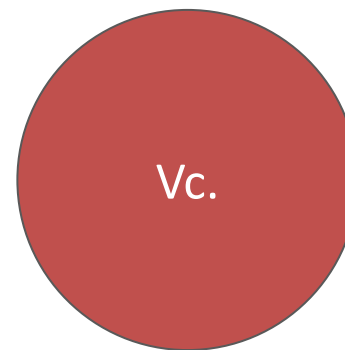
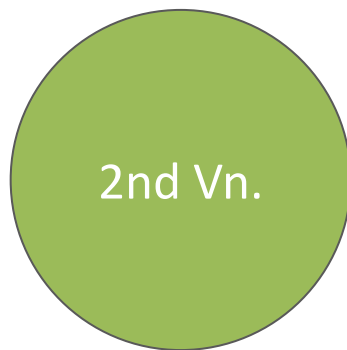
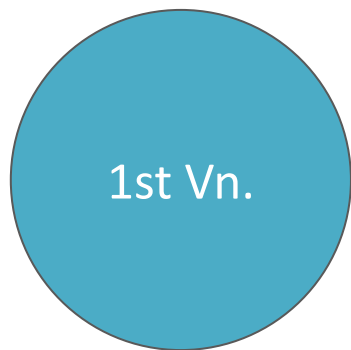


2-3 フォーム1:ユニゾン型

ユニゾン型

4パート全てユニゾン



ユニゾン型の特徴

- ① 全パートが完全ユニゾン
- ② スtringス全体で、2オクターヴ～3オクターヴにまたがるダイナミックなユニゾンを形成
- ③ メロディ要素しかないため、Stringス以外に和音やベース、リズムを担当するパートが必要
- ④ 発展系として、コードを形成しながら単一のメロディを演奏する「ブロックコード型」がある

全パートユニゾン

Prospero M04 Summer Sprint Strings

17 **Intro2** 18 19 20 21 22 23 24 2

Vln. I
Vln. II
Vla.
Vc.

25 **1A** 32 33 8

Vln. I
Vln. II
Vla.
Vc.

ユニゾン型のアレンジのポイント

ユニゾン型の場合、ストリングスはメロディ要素しか担当しないため、単体ではアレンジが成立しない。したがって、コード楽器、ベース楽器、リズム楽器と併用してアレンジしていくのが基本。

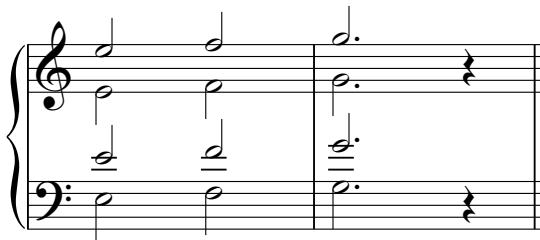
■ ユニゾン型アレンジの楽器組み合わせ例

- ✓ メロディ(orオブリガート) → ストリングス
- ✓ コード → ピアノ、ギターなど
- ✓ ベース → エレキベース、シンセベースなど
- ✓ リズム → ドラム、パーカッション、ギターカッティングなど

ユニゾン型のボーシング

ユニゾン型における、各パートのオクターヴ関係は以下の3つのパターンが有効。

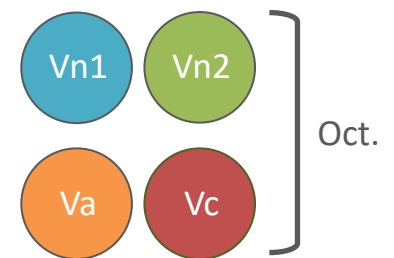
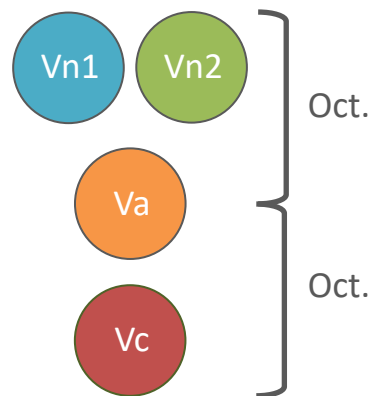
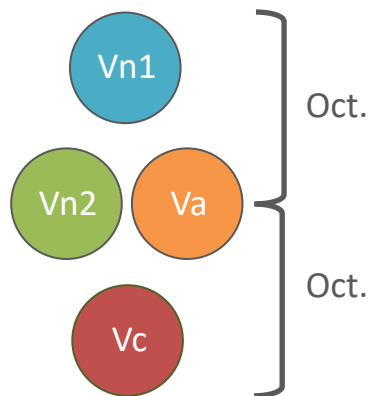
パターン1 : 2oct. (バランス重視)



パターン2 : 2oct. (トップノート強め)



パターン3 : 1oct.



ユニゾン型のアレンジ手順

- ① スtringsに演奏させたいメロディを決める
- ② メロディを1st Violinで打ち込む
- ③ 2nd、Viola、Celloにコピーする
- ④ 全パート音域内に収まっているか確認する

① スtringsに演奏させたいメロディを決める

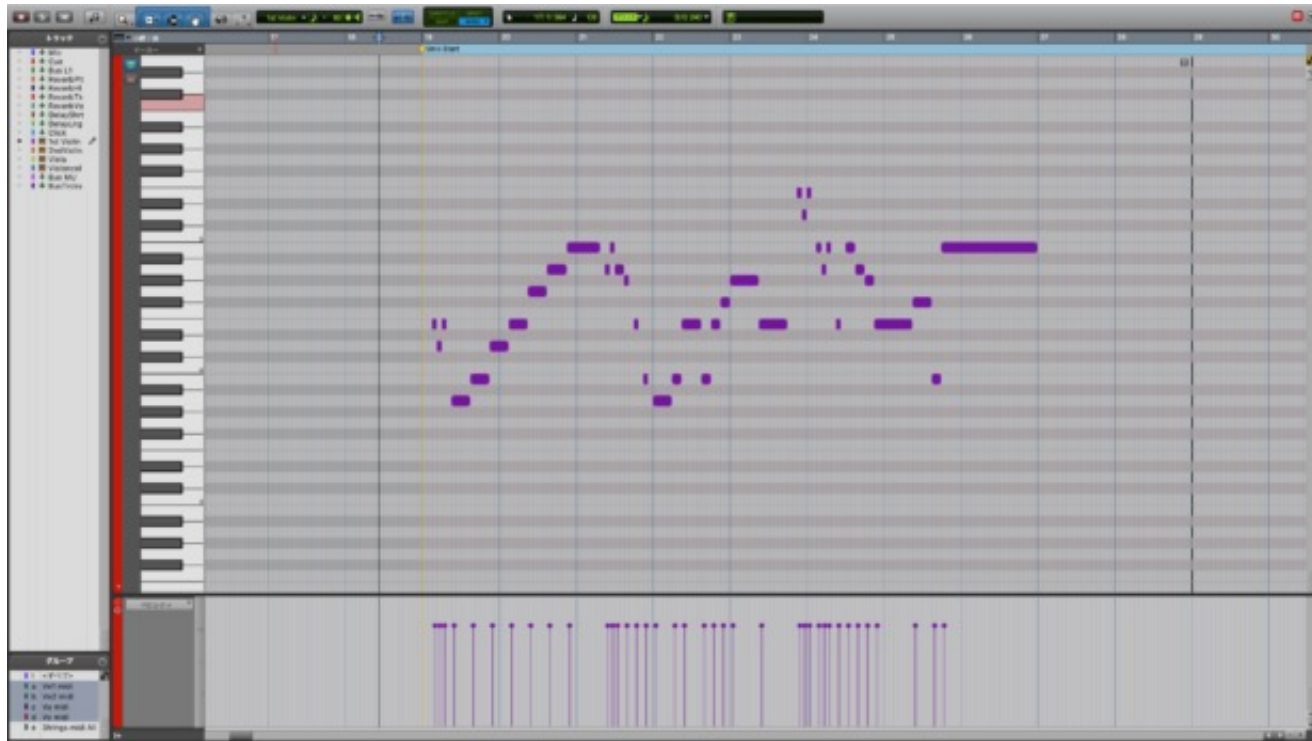
まずはメロディを決めよう！

主旋律を演奏させても良いし、メインメロディが他にある場合はオブリガート(対旋律)を演奏させてもOK。

Stringsを構成する楽器は、どの楽器も音域が広く機動力もあることから、広めの音域を使ってダイナミックなメロディを心がけると良い。

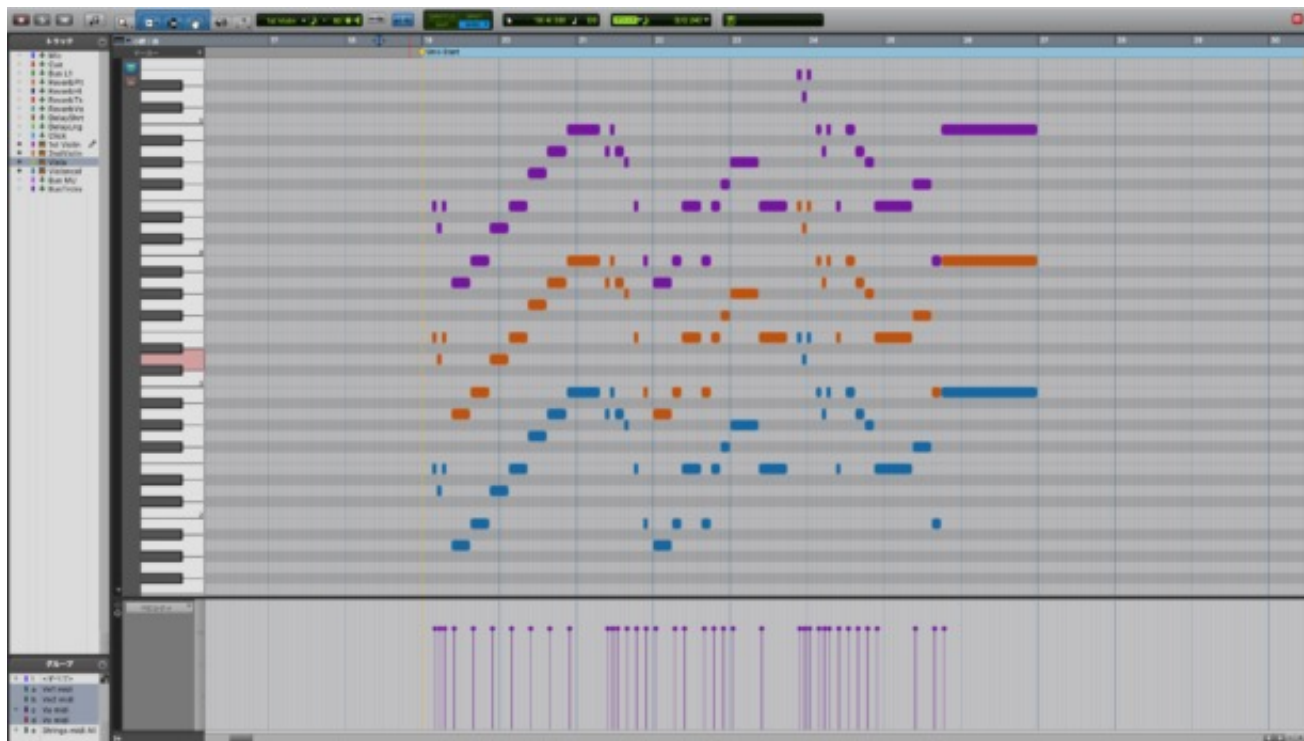
② 1st Violinで打ち込む

メロディが決まったら、1st Violinのパートに打ち込もう！



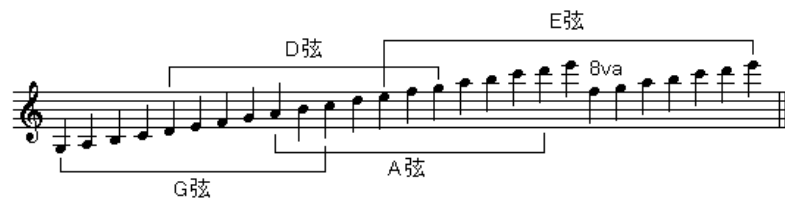
③ 2nd、Viola、Celloにコピーする

1st Violinに打ち込んだデータを、2nd以下にコピーしよう！



④ 全パート音域内に収まっているか確認する

■ Violin : G2 ~ E6



■ Viola : C2 ~ C5



■ Cello : C1 ~ G4



■ Double Bass※ : E0 ~ C3



※ユニゾン型でDouble Bassを使うことはまずないが念のため記載。